

頑張る

農業法人

「集落から荒廃地を出さない」。今年4月、集落全農家で立ち上げた福知山市岩間地区の農事組合法人「いわまファーム」代表理事の吉良勝さん(74)は、法人設立の思いを語る。

今年から酒造用掛け米の栽培に取り組む他、農地中間管理機構を活用した地域の農地保全、農業振興の拠点として期待される。

同地区は、福知山市南部で由良川に合流する土師川沿いに位置し、緩やかな斜面に農地が広がる。

1981年に地区の圃場(ほじょう)整備が始まり4年後に完了。整備圃場に対応した大型機械を効率良く共同利用しようと、84年に全農家組合

員53人で「岩間営農組合」を結成し、田植え機、トラクター、コンバイン各1台を購入。共同育苗施設や米乾燥施設も設置し、同地区の大半の農家が利用してきた。一方、小麦の集団転作や、サツマイモ、アスパラガスの栽培にも取り組んだが、排水が悪く思うようにいかない時期もあった。

営農組合結成後30年の経過とともに、高齢化で生産農家は30戸に減り、営農意向調査では後継者がおらず、継続できない農地を貸し出したい農家が多数を占めた。「圃場整備をした水田は荒廃させない」という同組合の方針を貫くためにも、利用権設定のできる法人化を検討。市、J A京都など関係機関の支援を受け、今年4月8日、全農

家42戸で法人設立した。吉良さんを含む理事は7人、監事2人。農繁期にはオペレーターら13人と、育苗には7人を臨時

福知山市

農事組合 法人 いわまファーム

米乾燥施設を背景に農業振興に励む(右から)吉良正敏理事、吉良勝代表理事、吉良康廣理事と会計担当の吉良房雄さん



高齢化集落を守る

雇用する。同J Aの勧めで今年から水稲のうち1畝で京都府オリジナルの酒造用掛け米「京の輝き」の取り

酒造用掛け米栽培、振興拠点に

組みを開始した。「主食米より値も良いので、来年以降も広めたい」と吉良さんは期待を込める。集落内にある畑地6畝の有効活用のため、農地中間管理機構を活用した農地の借り受けも行う予定だ。

地域との交流として、地元の下六人部小学校5年生が総合学習として行う、田植え・稲刈り実習体験を受け入れる。こうした取り組みで若い後継者の確保も期待する。

吉良さんは「農政転換で助成金も削減され、T P P (環太平洋連携協定)問題などで将来が心配だ」と、法人を取り巻く厳しい環境の変化を認識する一方、「農地中間管理機構の活用で経営面積を増やし、酒米の拡大など新たなチャレンジで農業振興を図っていきたい」と力強く話す。

▽法人所在地 福知山市字岩間973。連絡先(吉良勝代表理事宅) 0773(23)0801。